

広報



ごじょうめ

発行所 秋田県五城目町役場 編集 総務課 電話(018876)代 2100番
 印刷所 湖東印刷所 電話(018876)2430番 (一部五円)
 郵便番号 018-17 毎月1日・15日発行

人口と世帯

世帯数 3,918世帯
 人口 18,202人
 内訳 { 男女 8,813人
 9,389人

(46年9月30日現在)

転入・転出の場合はかならず窓口へ届出ください。

・秋田県五城目町・

※町民と町政をむすぶ広報紙

中秋の名月

十月三日は陰暦の八月十五夜で、からりと晴れあがった夜空に見事な満月が浮んだ。月は五穀豊饒(じょう)の大母神として、又水神的な存在として、人類太古の昔から宗教の祖となり親しまれてきた。しかし人間ともは、地球の衛星として、最も解明しやすい天体の一部分として、常に月を追求する手を休めず、一九五七年十月四日に初の人工衛星であるソビエトのスプートニク一号を打ちあげてから、一九七〇年までの十三年間に打ち上げられた宇宙ロケット等の回数は、失敗も含めて実に千三百回にもおよんでいる。その間、一九五九年九月十四日には、ソビエトのルナ一号がついに「雨の海」の西側面に到着した。これは人類が月へ物体を打ち込んだ最初の事件であった。それから十年後アメリカの人間宇宙船アポロ十一号が「静かの海」月面に着陸してしまった。それでも地球を照す月の光の神々しさは、時間と空間を超える人に過去を想起させ、未来を考えさせ、遠くに離れた肉身をそして愛する人を慰める不思議な力の持主として、人々の心中へしみじみとした情緒をいざなう。月をめぐる伝説習俗、神話伝承は、国が違い、人種が異なり、言葉が通じなくとも、人類共通の心の古里として、科学時代に生きるこれからも、私達の心中で永遠に生き続けるだろう。

地獄への帰還に成功し、神秘的であった月のベルも人間の力で見事とり去られてしまった。それでも地球を照す月の光の神々しさは、時間と空間を超える人に過去を想起させ、未来を考えさせ、遠くに離れた肉身をそして愛する人を慰める不思議な力の持主として、人々の心の中へしみじみとした情緒をいざなう。月をめぐる伝説習俗、神話伝承は、国が違い、人種が異なり、言葉が通じなくとも、人類共通の心の古里として、科学時代に生きるこれからも、私達の心の中で永遠に生き続けるだろう。

母は兄がコンゴから持ちかえつたマラカイトグリーンを私の掌にのせた。孔雀の羽根の模様の浮く石は、涙のしづくの型をしていた。そして、その悲しみの型のまま、あくまでも希望にみちた鮮緑石であつた。何もしてやれなかつた。それからも何もしてやれなかつた。そして自分の生命を他のためにやううと決意したその美しい魂に祈る思いで私はその石を握つた。

T子母子の米訪は、まったく不意であった。

「お別れに来たんですね。今夜の汽車で東京へたつのです……」私はこんなに明るいT子の顔を今まで見たことがなかつた。

「ご結婚ですか？」

「いいえ、島田療園に勤めるんです。」

私は、一瞬息をのんだ。よい方がしたらお世話をたくさんお願ひされたことが、心苦しく思い出された。私はついに世間みなみの幸せを与えることができなかつたのだ。

「世間へのご恩返しができ、生きて甲斐を感じる生活ならと思いまして。私もこうじや、化粧なしでがんばります。」まるたのあざをされはど氣にしていたT子が、ほほえんでいる。私はこのはえみに救われた。この子なら真の幸せに輝いてくれると信じられ

月みればちぢにものこそかなしけれわが身ひとつ秋にはあらねど 大江千里



大川中 三戸 ユウ

マラカイトグリーン
広報サロン
ROOM

広報ごじょうめ 第190号

農山漁村 生活近代化バイロット事業

下轄口生活総合センター完成

農村における、家事労働の合理化と、主婦労働の軽減をはかることなねらいとして、かねて下轄口部落では、生活近代化バイロット事業を受け入れ、保育施設と教育施設を開設した、生産組合センターを建設すべく、今春以来普及所及び町産業課と協議を進めおりましたが、このたび総事業費二百九十三万円で完成し、去る九月三十日新らしいセンターで農林事務所長や町長が出席し、盛大に竣工式が行なわれました。

この施設は、県で最も過重に起因する、諸問題が発生しているので、生産改善対策として実施したもので、百五十万円以上の事業費に対し、五十万円を限度とする県費補助を行ない、これに対し、町でも二十万円の補助をいたしました。本事業は、下轄口部落で事業主体及び管理主体となり実施したもので、今までの放送局の電波受信



よりもすぐれた映像が見られるが、使用チャンネルが、NHK総合54チャンネル、教育52チャンネル、UHFなどのため、次の方がが必要です。

(◎) 馬場目放送局
U波で放送開始

今までの、どの放送局の電波

心のかけはしてある

五城目小阿仁間駅伝競走大会は今

年で七回目をむかえ

きたる十月十七日

(日) 正午五城目町

駅伝競走大会

を走行します。

今年の出場チーム

は前年度優勝の秋田

大学、五城目高校チ

ームをはじめとして

一般十チーム、高校

二チームが参加して、紅葉の山あ

いを快走します。

参考チームは次のとおりです。

▽高校

五城目農友会、森吉陸協、男鹿

ノ農友会、秋田大町

農友会、秋田大町

